



2019年9月期

決算説明会資料

2019年11月20日(大阪)
11月21日(東京)



1. 会社概要

2. 2019年9月期決算サマリー

3. 今後の取り組み

(ご参考資料)

商号	IMV株式会社 [英文社名] IMV CORPORATION
会社設立	1957年（昭和32年）4月17日
資本金	4億6481万円
従業員数	399名（2019年9月30日現在 連結）
年間売上高	123億4,800万円（2019年9月期 連結）
上場証券取引所	東京証券取引所JASDAQ市場
証券コード	7760
決算期	9月30日



グローバルネットワーク①

春日井テストラボ 2019年 1月操業開始



Osaka
大阪



- ・本社
- ・大阪営業所

Iruma
入間



- ・日本高度信頼性評価試験センター

Tokyo
東京



- ・東京営業所
- ・東京エンジニアリングサービス部



- ・MESエンジニアリングサービス部
- ・東京テストラボ

Kasugai
春日井



- ・春日井テストラボ

Nagoya
名古屋



- ・名古屋営業所
- ・名古屋テストラボ

Uenohara
上野原



- ・上野原サイト 高度試験センター

グローバルネットワーク②



Germany

ドイツ



IMV EUROPE LIMITED
German Sales Office

Thailand

タイ



IMV (THAILAND) CO., LTD

China

中国



IMV CORPORATION
Shanghai Representative Office

U.S.A.

アメリカ



IMV America, Inc.

U.K.

英国



IMV EUROPE LIMITED



IMV EUROPE LIMITED
European Manufacturing Centre



1g dynamics

Vietnam

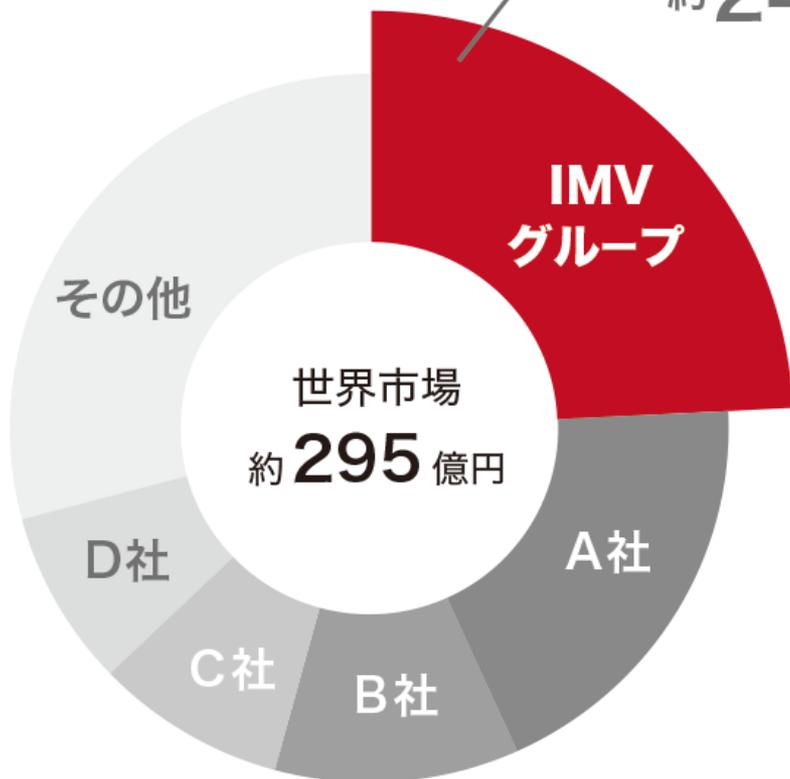
ベトナム



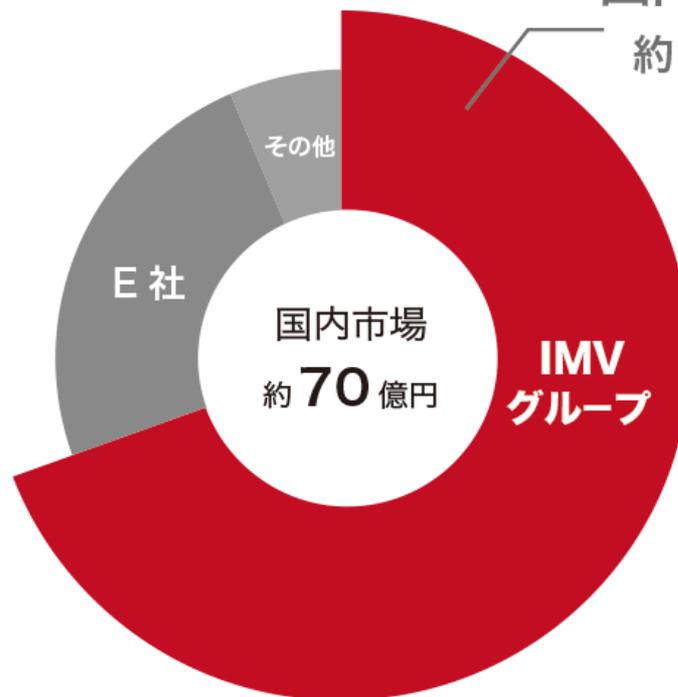
IMV TECHNO VIETNAM CO., LTD

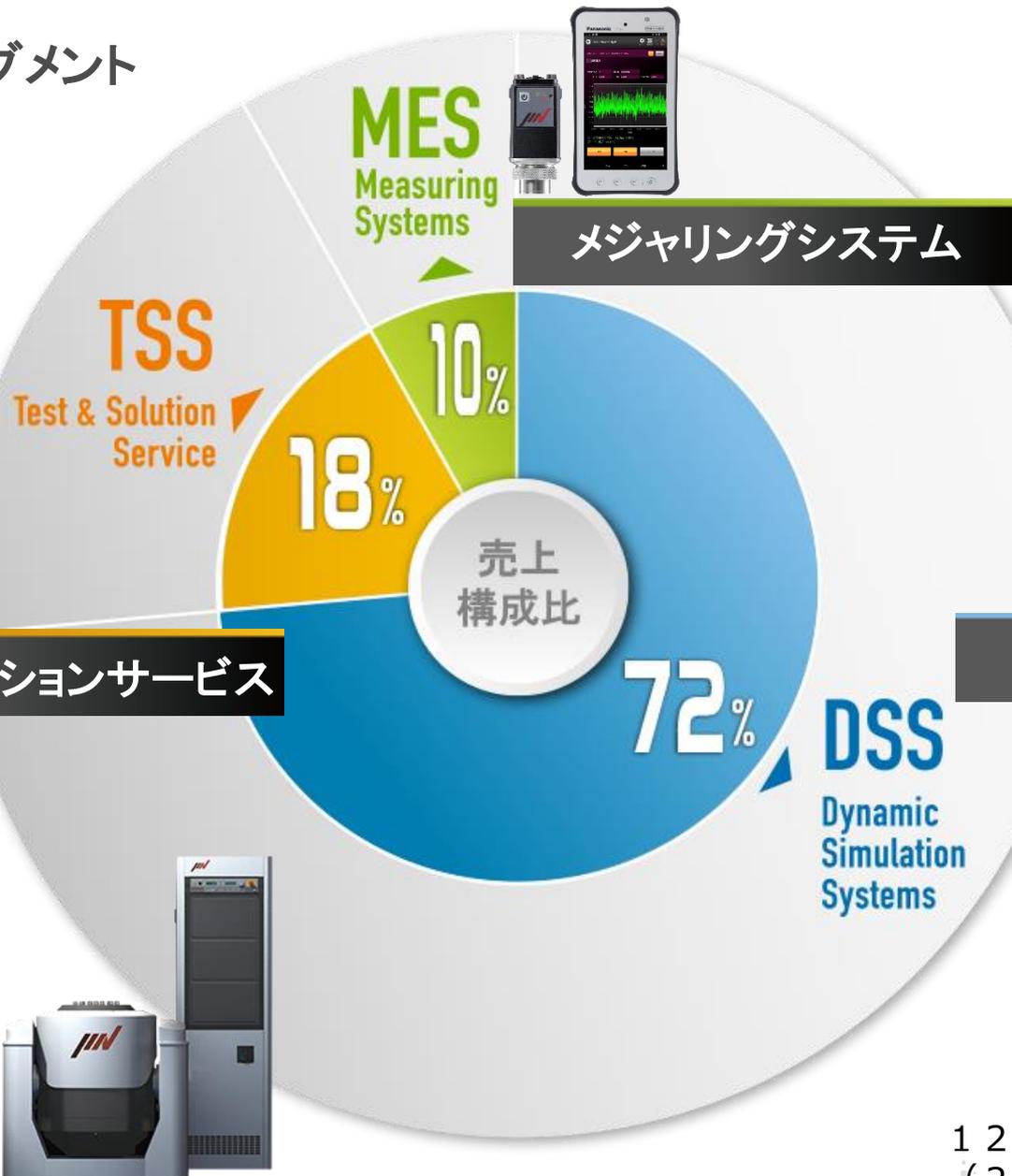


世界シェア
約24%



国内シェア
約65%





メジャリングシステム



テスト&ソリューションサービス



振動試験装置



123億4,800万円
(2019年9月期 連結)



1. 会社概要

2. 2019年9月期決算サマリー

3. 今後の取り組み

(ご参考資料)

決算概要(連結) 1



(単位:百万円)

	19/9期 実績	18/9期 実績	コメント
売上高	12,348	11,044	国内外の自動車関連業界を中心に振動シミュレーションシステム及びテスト&ソリューションシステムの受注は順調に推移し、大幅な増収となりました。
経常利益	652	918	新テストラボ開設による人件費や減価償却費等の増加、一部連結子会社の減益や為替差損の発生等により、前年同期比29.0%の減益となりました。
純資産	6,503	6,407	親会社株主に帰属する当期純利益(366百万円)の計上により順調に増加しました。
フリーキャッシュフロー	145	△1,951	前期においてはe-TCJ(埼玉県入間市)土地建物購入等の設備投資によりフリーキャッシュフローは大幅に減少しました。今期においては増収等に伴う営業活動による収入が新規設備投資に伴う支出を上回った結果、フリーキャッシュフローは増加しました。
売上高経常利益率	5.3%	8.3%	国内外売上高の増加により増収になったものの、一部連結子会社の減益や為替差損の発生等により、売上高経常利益率は前年同期と比較し低下しました。
自己資本比率	42.8%	40.7%	親会社株主に帰属する当期純利益の計上により純資産が増加した結果、財務安全性は引続き堅調です。
自己資本当期純利益率 (ROE)	5.7%	9.6%	親会社株主に帰属する当期純利益が前年同期より減少した影響により、自己資本当期純利益率は低下しました。

決算概要(連結) 2



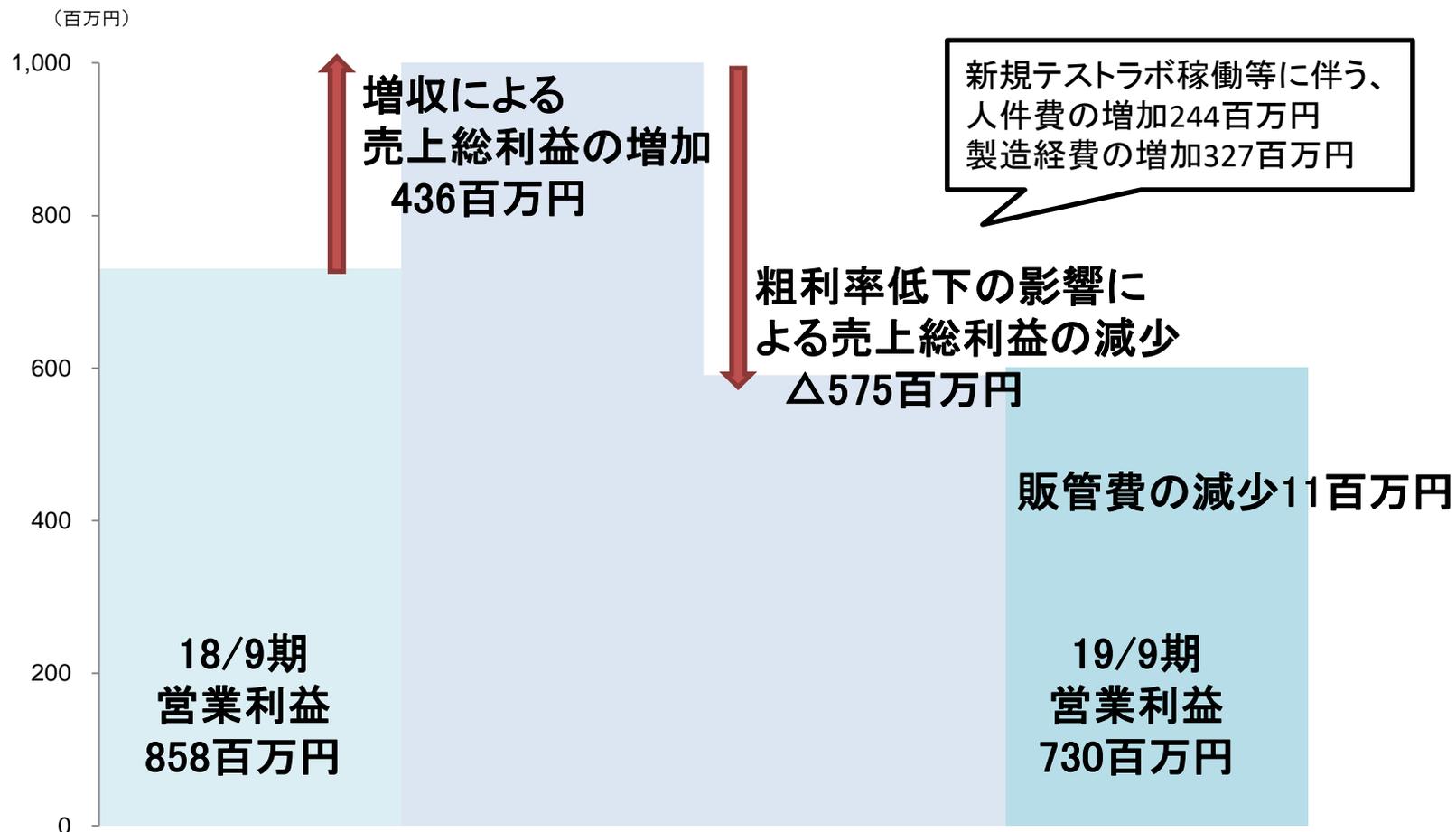
(単位:百万円)

	19/9期 実績	18/9期 実績	増減額	増減率	19/9期末 予想	増減率
受注高	11,911	12,720	△809	△6.4%	—	—
売上高	12,348	11,044	+1,303	+11.8%	12,000	+2.9%
営業利益 (営業利益率)	730 (5.9%)	858 (7.8%)	△128	△14.9%	1,200 (10.0%)	△39.1%
経常利益 (経常利益率)	652 (5.3%)	918 (8.3%)	△266	△29.0%	1,200 (10.0%)	△45.7%
親会社株主に帰属 する当期純利益 (当期純利益率)	366 (3.0%)	578 (5.2%)	△211	△36.5%	780 (7.8%)	△53.0%
設備投資額	804	1,772	△968	△54.6%	—	—
減価償却費	618	477	+141	+29.7%	—	—
研究開発費	447	437	+10	2.3%	—	—
従業員数(人)※	399	362	+37	+10.2%	—	—

※△は損失、減少を表します。従業員数には、期中平均臨時従業員数を含みます。

売上高は前年同期比1,303百万円増収の12,348百万円となりました。しかしながら、新設テストラボに関する費用が先行して発生した事に加え、一部連結子会社の低迷により、営業利益は前年同期比128百万円減益の730百万円となり、さらに、為替差損の影響により経常利益は前年同期比266百万円減益の652百万円となりました。これらに加えて、連結子会社による減損損失の計上に伴い、親会社株主に帰属する当期純利益は前年同期比211百万円減益の366百万円となりました。

営業利益増減要因(連結)

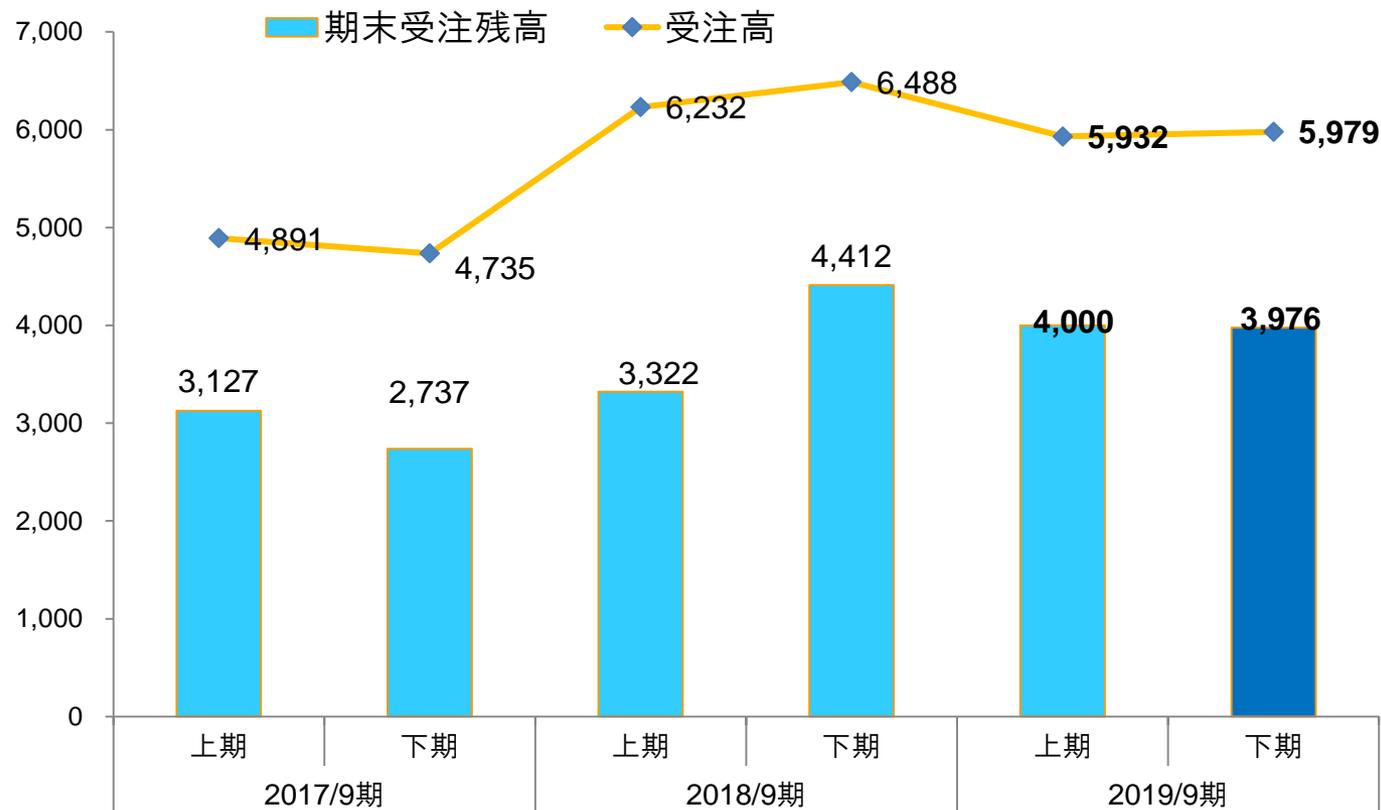


売上高が1,303百万円増加しましたが、新テストラボ稼働に伴い費用発生が先行した結果等より、営業利益は128百万円の減益となりました。

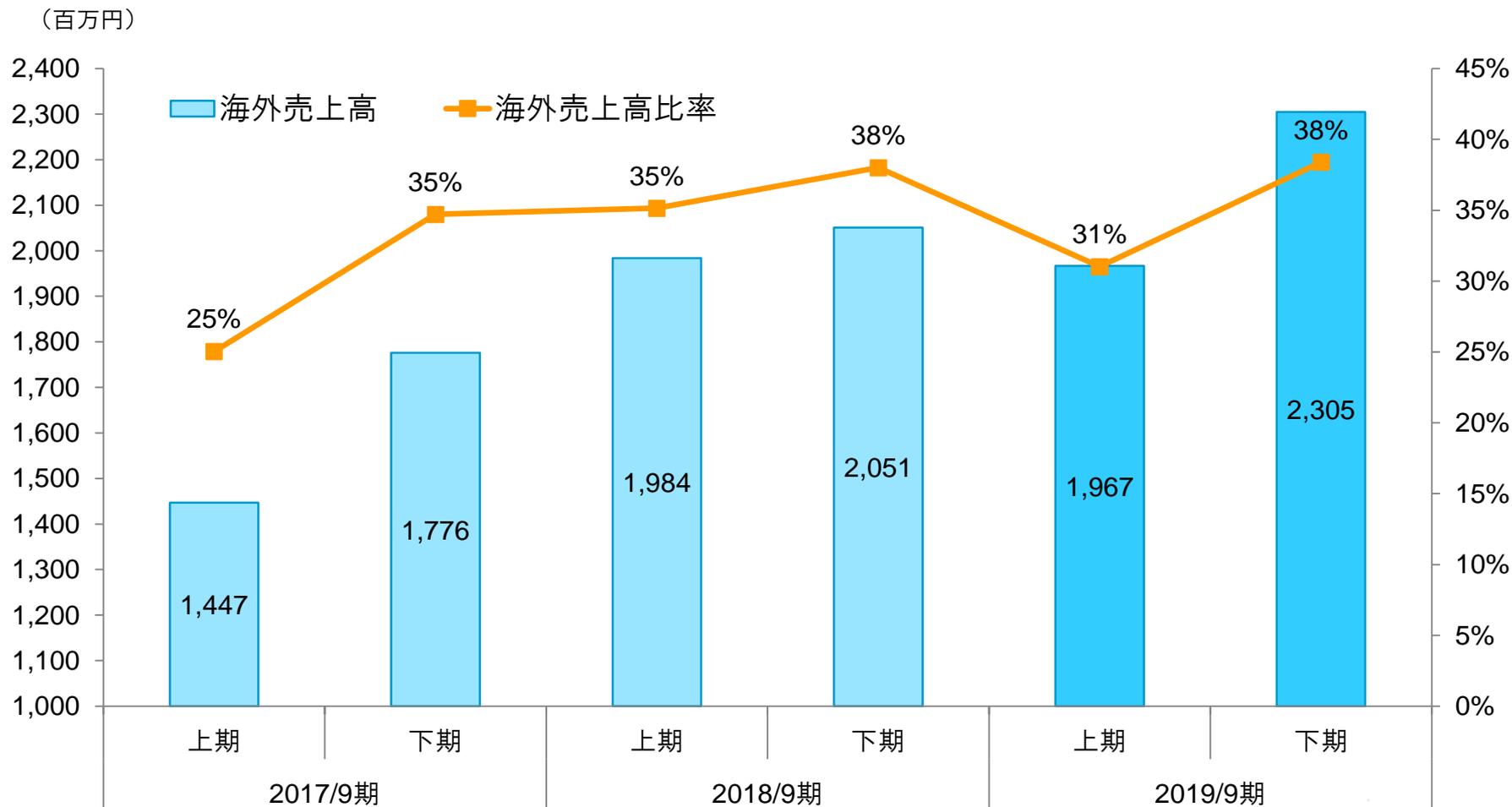
受注の状況



(百万円)

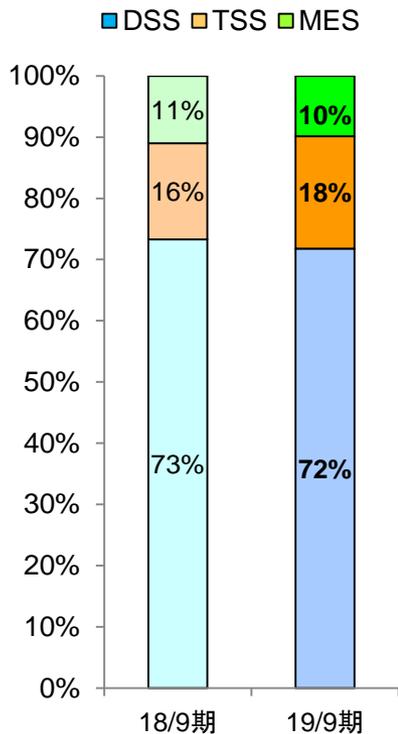


海外売上高比率の増減

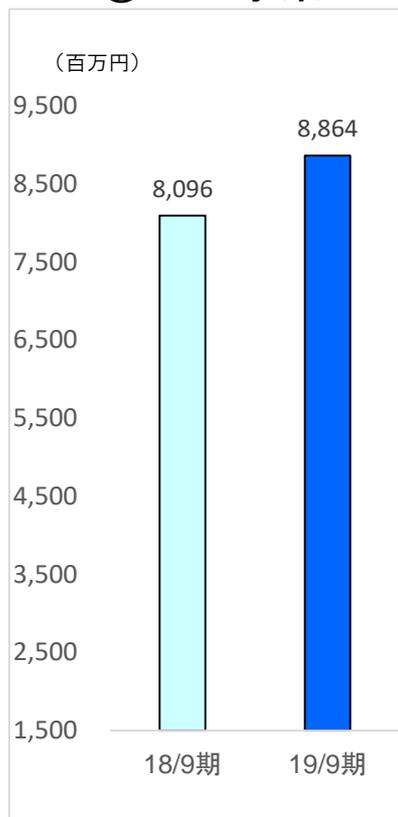




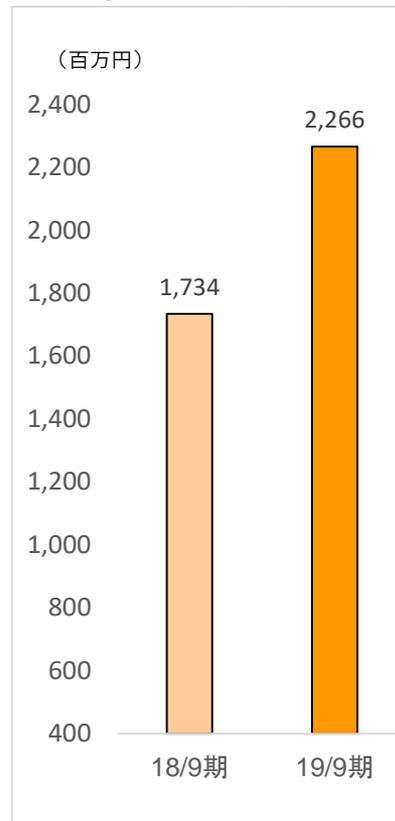
○ 品目別売上構成率



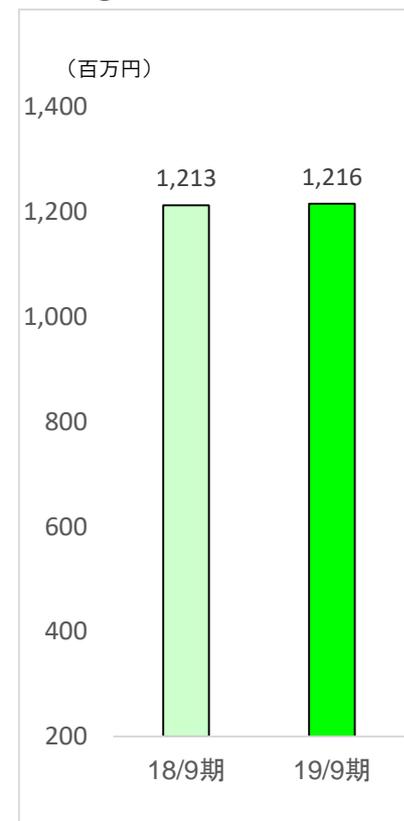
○ DSS事業



○ TSS事業



○ MES事業



DSSにおいては前期末時点の高い受注残高に加えて、大型振動シミュレーションシステム及び温湿度・振動複合環境シミュレーションシステムが国内外で伸長し、MESにおいても海外市場における地震計売上の伸長により、前年同期を上回る結果となりました。

TSSにおいては、新設受託試験施設の立上げに加えて、東京ラボ・大阪ラボも好調であり、過去最高売上高を更新しました。

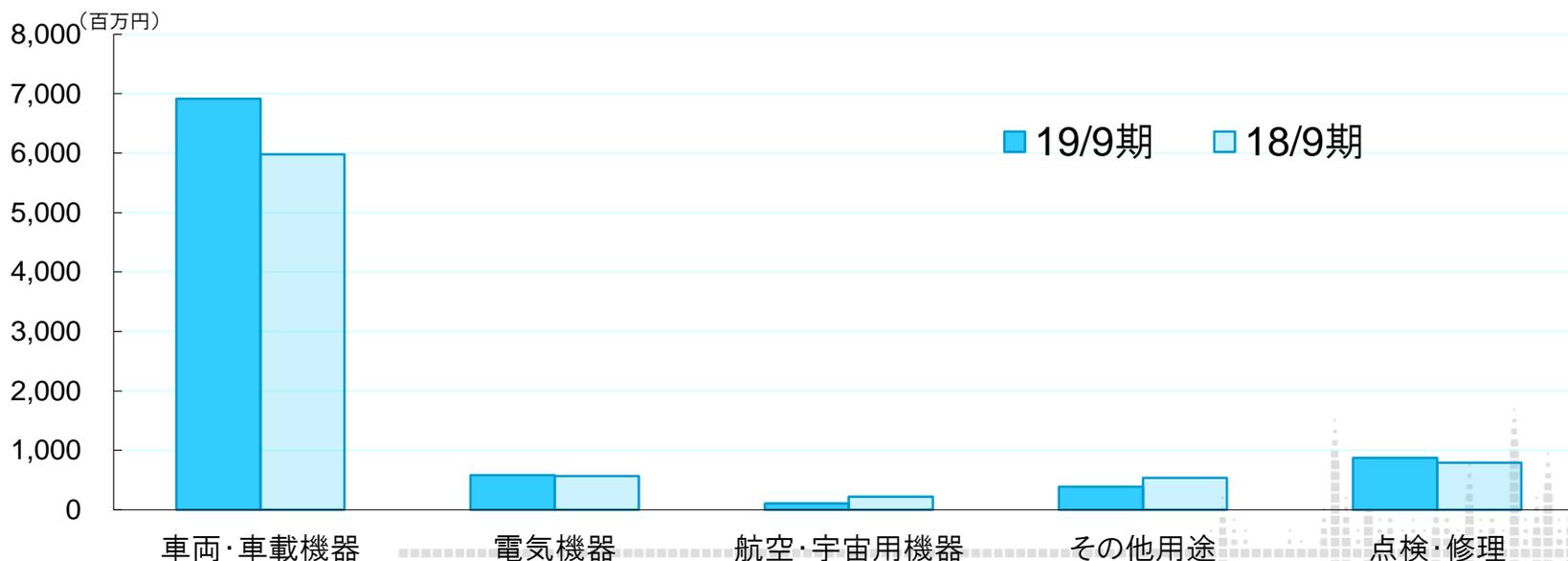
DSS事業 ～概況～



(単位:百万円)

	19/9期	18/9期	増減額	増減率
車両・車載機器向け	6,913	5,982	932	15.6%
電気機器向け	581	568	13	2.4%
航空・宇宙用機器向け	108	219	△110	△50.5%
その他用途向け	388	537	△149	△27.7%
点検・修理	874	792	82	10.3%
合計	8,865	8,097	768	9.5%

- 主力である、車両・車載機器向け売上が大幅に増加した結果、売上高全体で増収となりました。
- 航空・宇宙用機器向け売上高は、一時的に減収となりました。



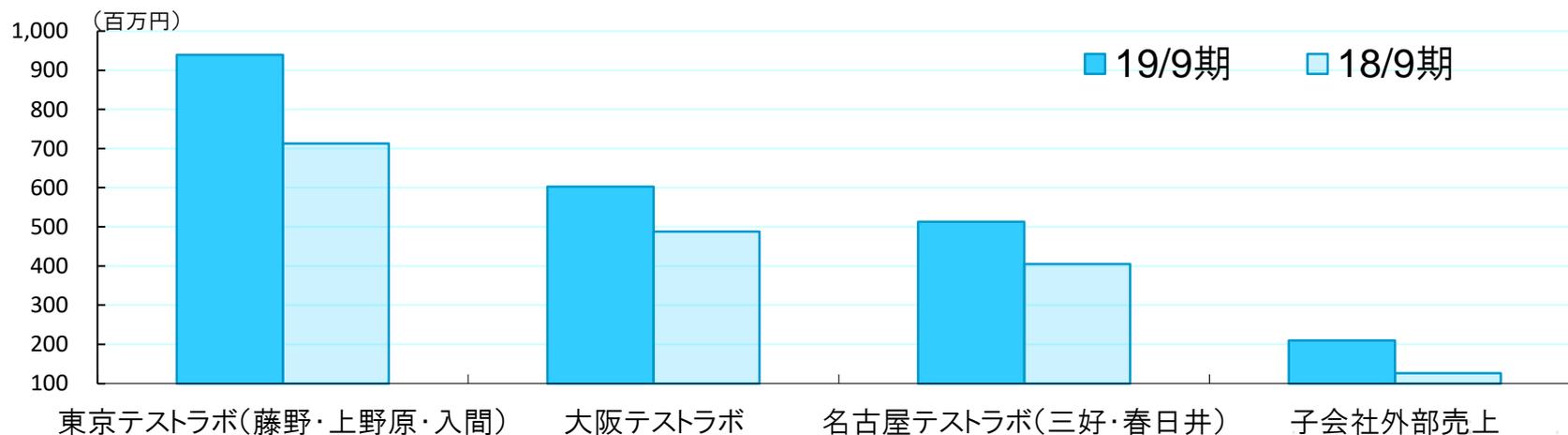
TSS事業 ～概況～



(単位:百万円)

	19/9期	18/9期	増減額	増減率
東京テストラボ (藤野・上野原・e-TCJ)	939	713	226	31.7%
大阪テストラボ	603	488	113	23.2%
名古屋テストラボ (みよし・春日井)	513	405	107	26.4%
子会社外部売上	210	126	84	66.7%
合計	2,266	1,734	531	30.6%

- 東京テストラボ上野原サイトは、大型高額案件の受注により増収となりました。
- 一方、大阪テストラボは、鉄道業界からの受注が好調であり、増収となりました。
- また、名古屋テストラボにおいても、春日井テストラボの本格稼働に伴い、車載機器業界からの受注が増加した結果、前年同期を上回る結果となりました。



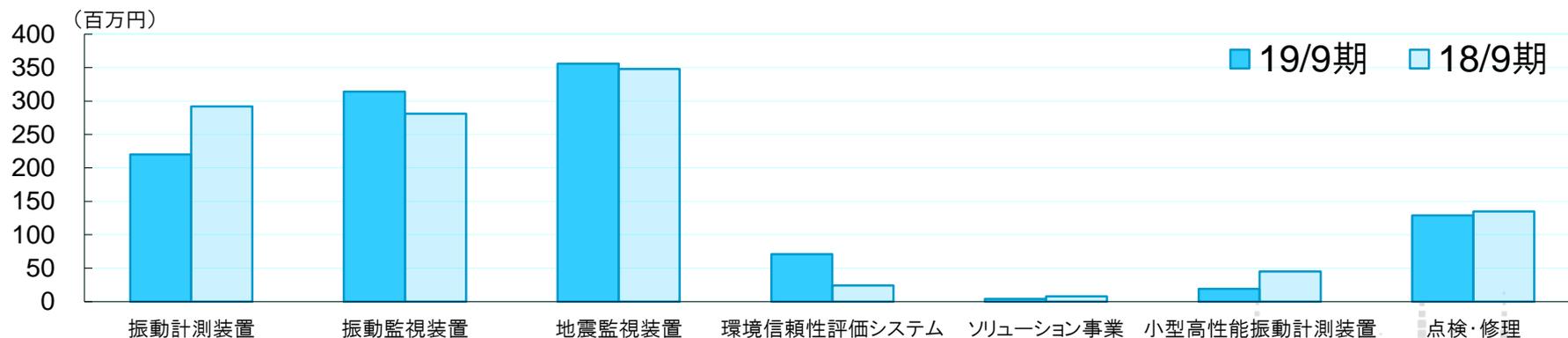
MES事業 ～概況～



(単位:百万円)

	19/9期	18/9期	増減額	増減率
振動計測装置	220	292	△71	△24.6%
振動監視装置	314	281	32	11.6%
地震監視装置	356	348	7	2.3%
環境信頼性評価システム	71	24	46	193.9%
ソリューション事業	4	8	△4	△53.1%
小型高性能振動計測装置	19	45	△26	△57.2%
点検・修理	129	135	△6	△5.0%
子会社外部売上	102	77	24	31.9%
合計	1,216	1,213	3	0.3%

- 電力会社や製造プラント向け大型振動監視装置及び海外での地震監視装置の売上が好調で、増収となりました。
- 一方で、振動計測装置の売上が伸び悩み、前年同期を下回る結果となりました。



業績の見通し(連結)



(単位:百万円)

	20/9期 予想	19/9期 実績	増減額	増減率
売上高	12,500	12,348	+152	+1.2%
営業利益 (営業利益率)	1,000 (8.0%)	730 (5.9%)	+270	+36.9%
経常利益 (経常利益率)	1,000 (8.0%)	652 (5.3%)	+348	+53.3%
親会社株主に帰属する当期純利益 (当期純利益率)	800 (6.4%)	366 (2.9%)	+434	+118.1%
設備投資	768	804	△36	△4.5%
減価償却費	619	618	+1	+0.2%
研究開発費	578	447	+131	+29.3%
従業員数(人)※	408	399	+9	+2.2%
1株当たり配当金(円)※	8.5	8.5	0	0%

※ 従業員数には、期中平均臨時従業員数を含みます。

※ 2019年12月開催予定の定時株主総会において、上記配当金を附議する予定です。



本日のアジェンダ

1. 会社概要

2. 2019年9月期決算サマリー

3. 今後の取り組み

(ご参考資料)

DSS事業(営業)の取り組み① 新製品販売 小型輸送試験装置 (m130LS)



● マーケティング活動を元に、小型試験装置を開発

- ・搭載質量、周波数、振動台寸法等の必要スペック検討
- ・多様な輸送形態 (ラストワンマイル輸送)
- ・輸送試験の規格見直しが増加 (Amazonが自社の輸送試験規格開発 etc)
- ・mシリーズのメリット (AC100V電源、小型、静音、安価) を踏襲しつつ、ムダを排除してより安価に
- ・「買いやすい=売しやすい」をテーマに、パック製品販売を検討
→ リース販売、eコマース販売、レンタルに期待



【m130LS本体】



2019年9月に日経新聞に「m130LS新発売」の記事が掲載されてから、約1ヶ月半で52件の新規引き合いが発生
新規引き合い先顧客は、これまで弊社が接触したことがないお客様からのものが半数以上となり、狙いどおりの結果となりました

DSS事業(営業)の取り組み② 航空宇宙支援

航空宇宙業界向け支援



● ASEAN向け人工衛星打ち上げ支援業務

- ・大学やJAXA等と協力し、ASEANにおける衛星打ち上げ支援として振動試験装置等の提案

● インターステラテクノロジズのロケット打ち上げ支援業務開始

- ・『みんなのロケットパートナーズ』



超小型衛星用ロケット「ZERO」のイメージCG



「MOMO」のイメージCG

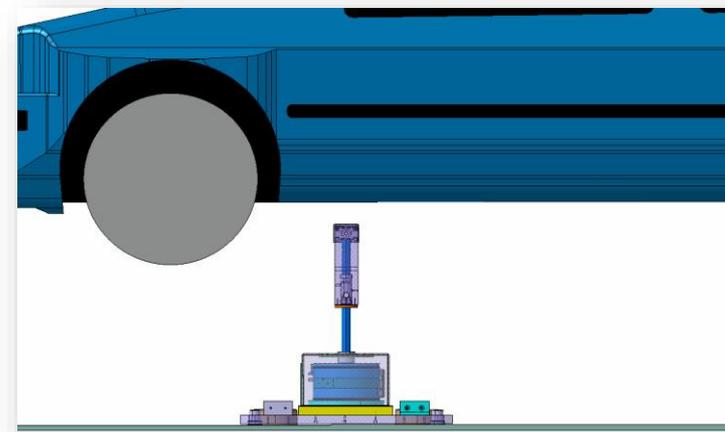
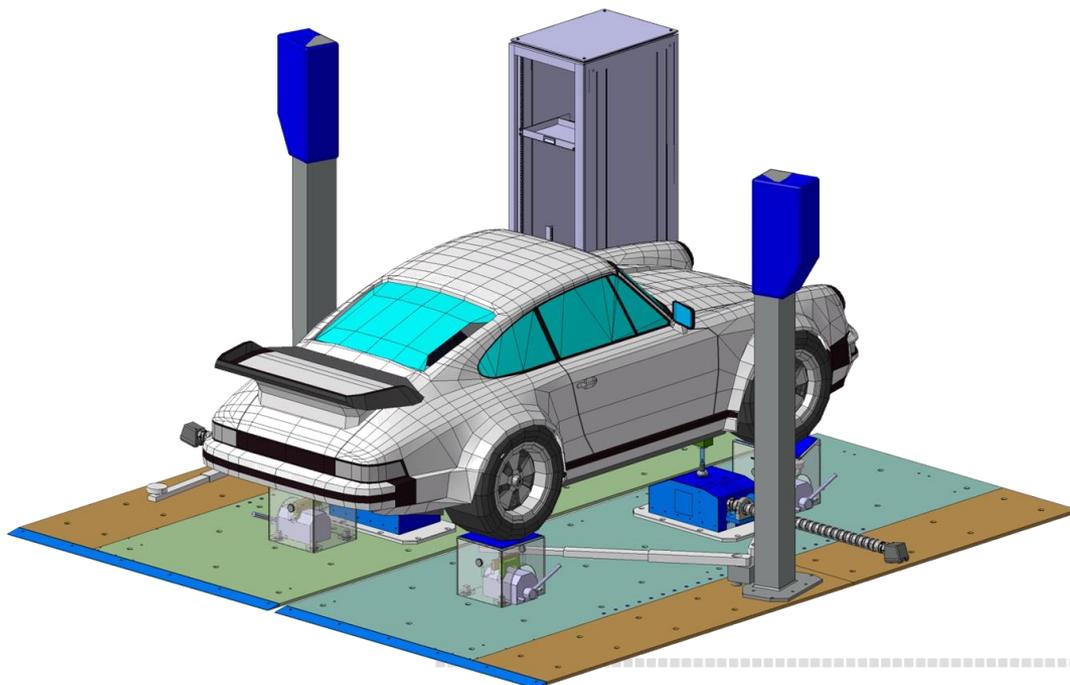
「インターステラテクノロジズ 提供」

DSS事業(営業)の取り組み③ AKE社と業務提携 小型試験装置の販売業務提携



●ドイツ AKE-technologies社 (以後、AKE社) との 振動試験装置 販売業務提携

- ・「小型なのに大加振力」な振動試験装置を製作・販売するAKE社製品の国内販売開始
- ・低騒音 & 高許容モーメントにより自動車メーカーへの拡販を狙う
- ・AKE社装置は、VW・BMW・ポルシェ etcで実績多数あり



DSS事業(営業)の取り組み④ 大型振動試験装置 大型振動試験装置販売



● 航空宇宙業界向けに大型振動試験装置 (K350) を新規受注

- ・「大型製品を大加速度で加振したい」という要望が増加
- ・航空宇宙業界より新規引き合い発生
- ・自動車業界及び他業界からの新規引き合いも増加



DSS事業(営業)の取り組み⑤ フランス市場の開拓 フランス拠点の創設



●フランス市場の潜在力：GDP EU域内 第3位

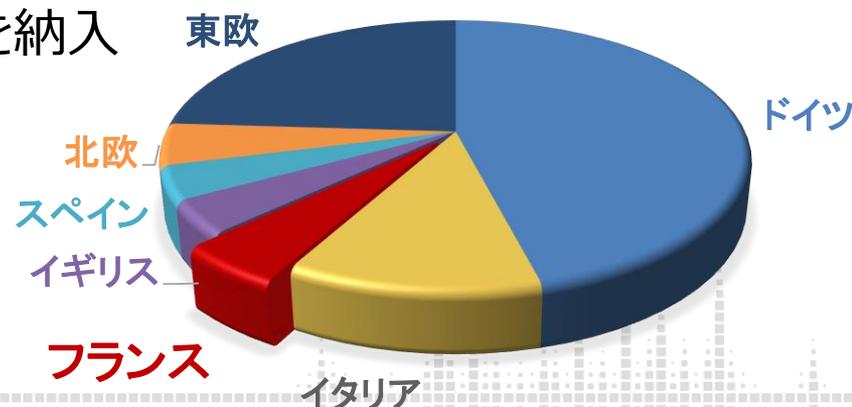
- 自動車産業 : Renault、プジョー、シトロエン
- 航空宇宙産業 : Airbus、Thales、SAFRAN
- 試験所産業 : EMITECH、SOPHEMEA



●これまでのIMVのポジション

- 代理店の情報収集力弱く、案件成約率低い
(73期 約1億円を失注)
- 競合(LDS社)：10年間で約200台を納入

EU域 売上比率 (73期)



DSS事業(営業)の取り組み⑤ フランス市場の開拓 フランス拠点の創設



● 代理店戦略を見直し、直接販売で受注増を狙う

- 顧客との直接コンタクトする機会を増やし、テクニカルな提案営業を目指す
- 代理店コミッションを省き、価格競争力を上げる
- 航空宇宙産業の開拓

● パリ近郊にセールスオフィス開設

- 2名のセールスマン獲得
- 顧客との距離を縮め、迅速でテクニカルな提案営業を期待
- 競合製品へのサービス、メンテナンス提案

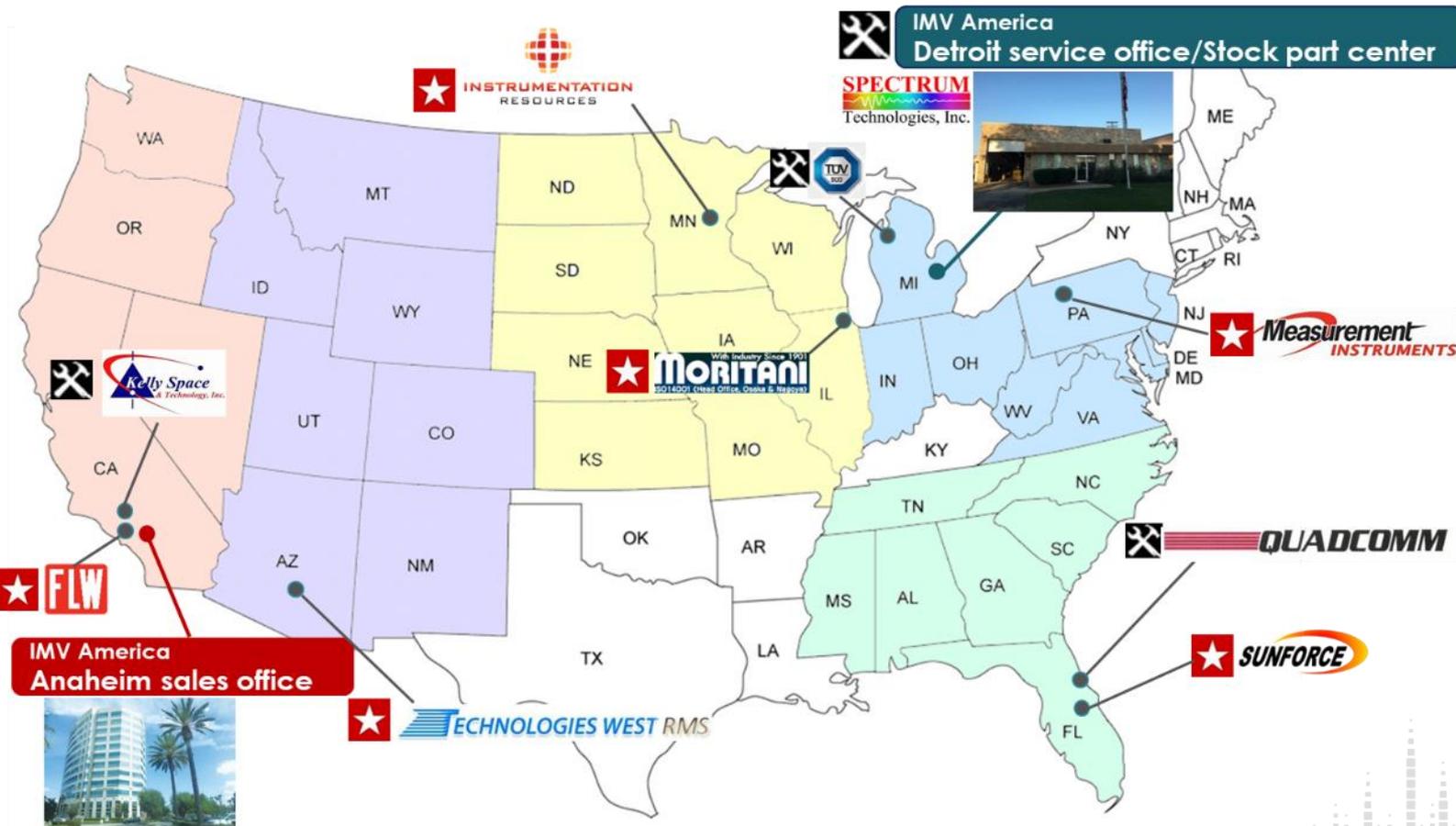


DSS事業(営業)の取り組み⑥ 米中西部地域の強化



● 全米に販売REPを網羅

- 自動車関連顧客が集積する、デトロイト地区にサービス拠点を設置
- 同上記地区にストックパーツセンターを設置



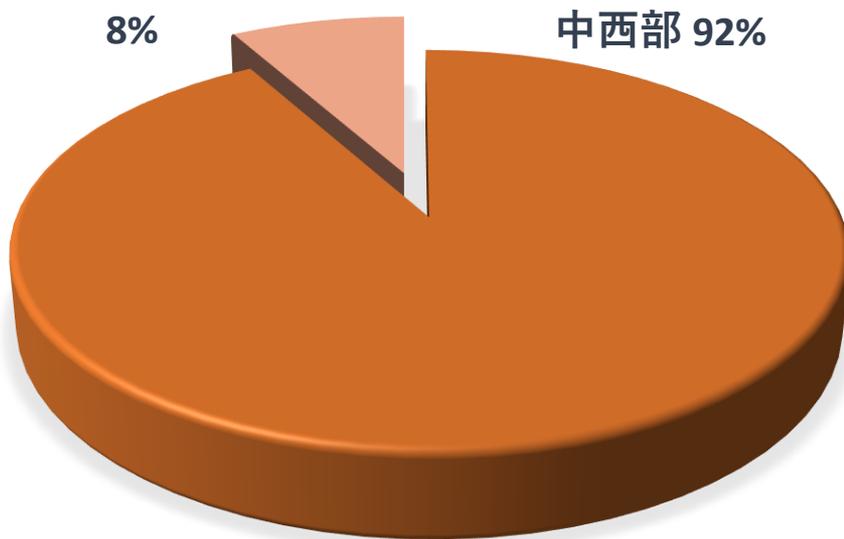


● 米国内 地域別 売上比率

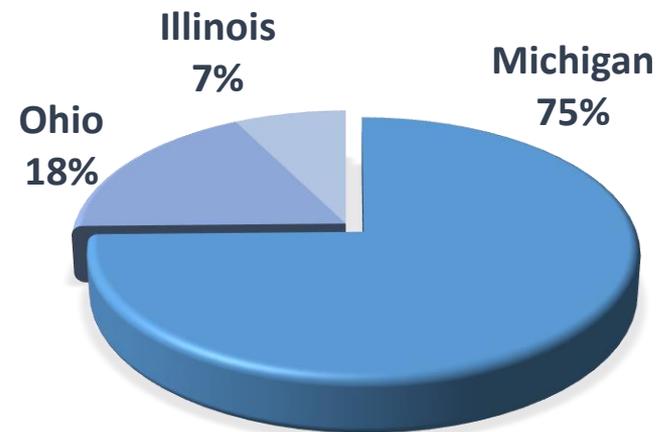
- 米国売上の9割以上が中西部向け
(中西部内、ミシガン州向けが75%を占める)

US内 地域別売上

中西部外 (US外含む)



州別売上 (中西部内)





● 自動車関連の集中する中西部地区に対し、さらなる販売注力

- カリフォルニア州セールスオフィスを、ミシガン州に移転
- インサイドセールスを1名増員
(合計3名のセールス員を同オフィスに一極集中、同地区顧客をさらに取り込む)

● 在庫販売による短納期戦略

- 自動車関連顧客に強い機種を在庫化し、注文後1～2ヶ月で納入
- 競合の納期5～12ヶ月に対抗
- 試験所顧客など、短納期を求める顧客への訴求効果を狙う

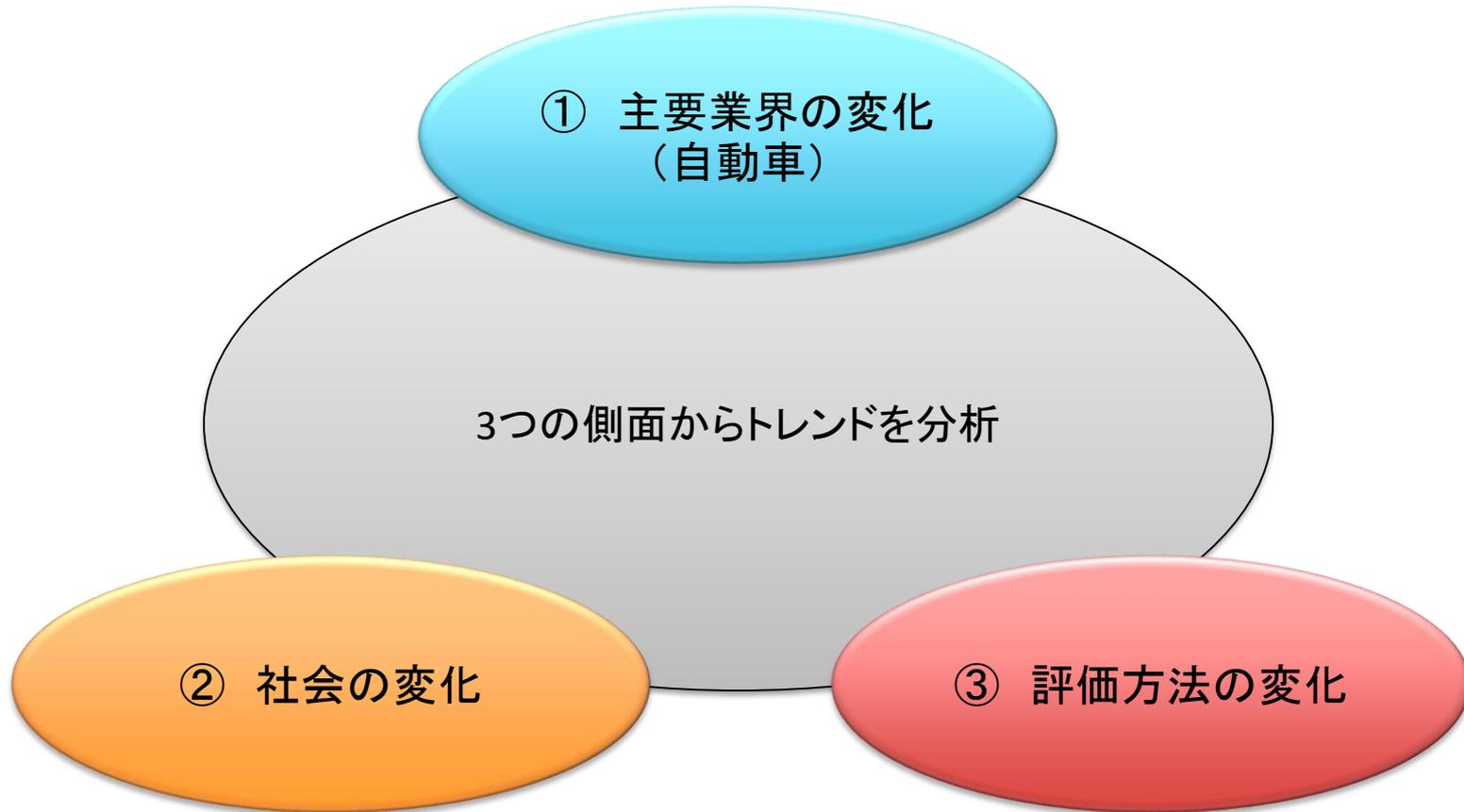
● サービス体制の強化

- ミシガン パーツセンターよりサービスパーツの即日発送
- サービスのスピード、品質で他社との差別化



DSS事業(開発)の取り組み①

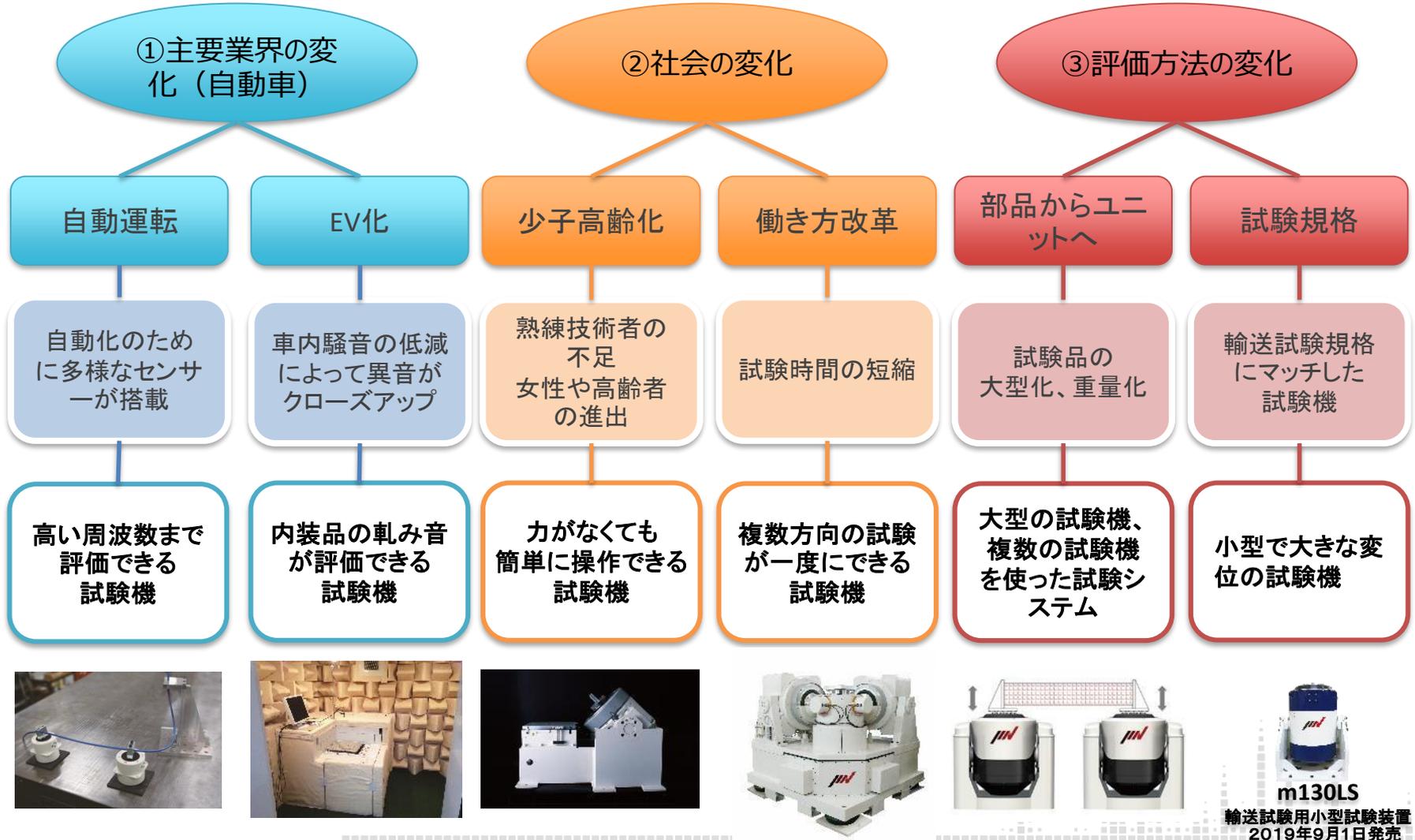
1. トレンドを見据えた製品開発





DSS事業(開発)の取り組み①

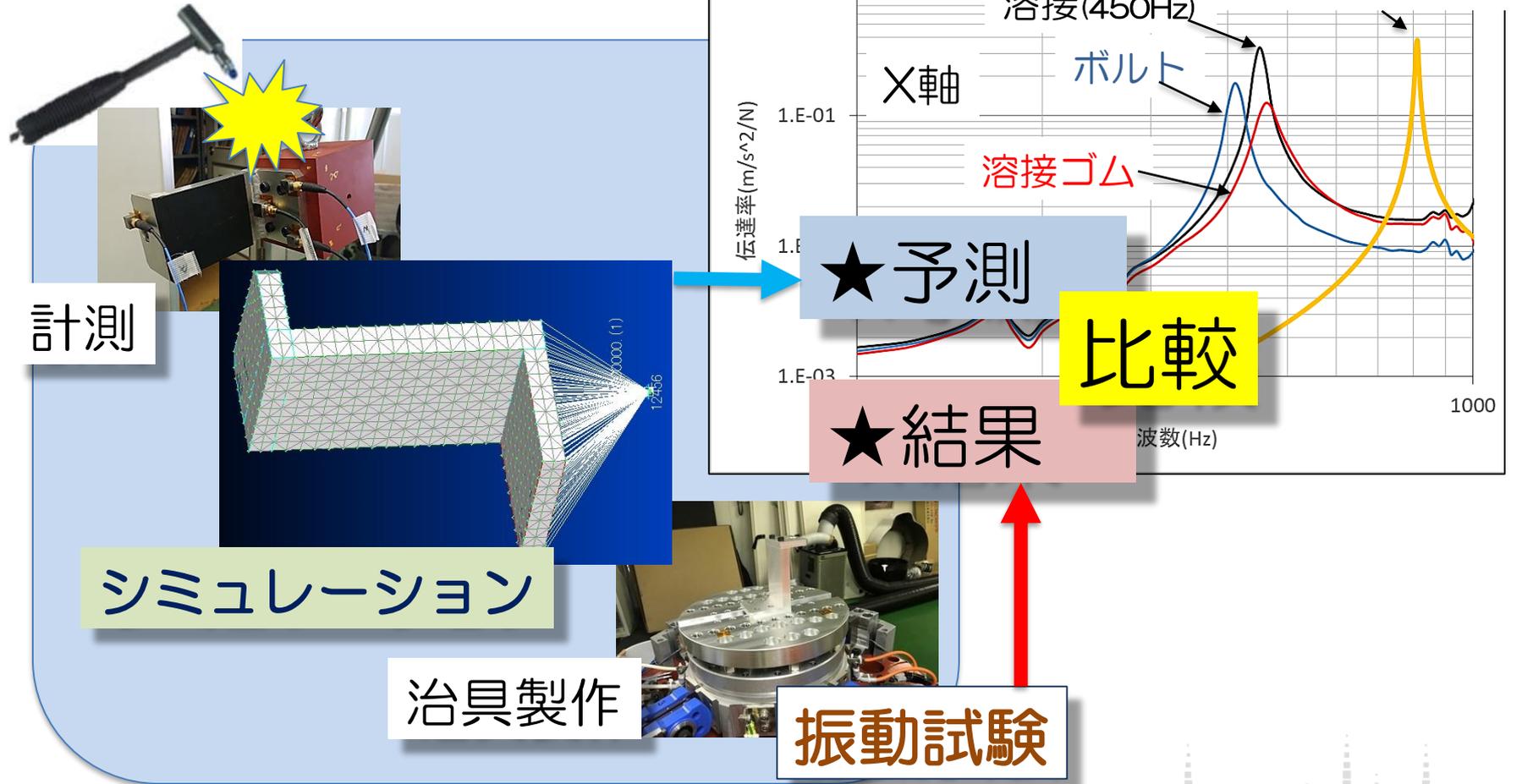
1. トレンドを見据えた製品開発





DSS事業(開発)の取り組み② 解析センター稼働

1. 計測+シミュレーション+治具製作



★全てを内包したサービス (+製品) の提供 = **高付加価値**

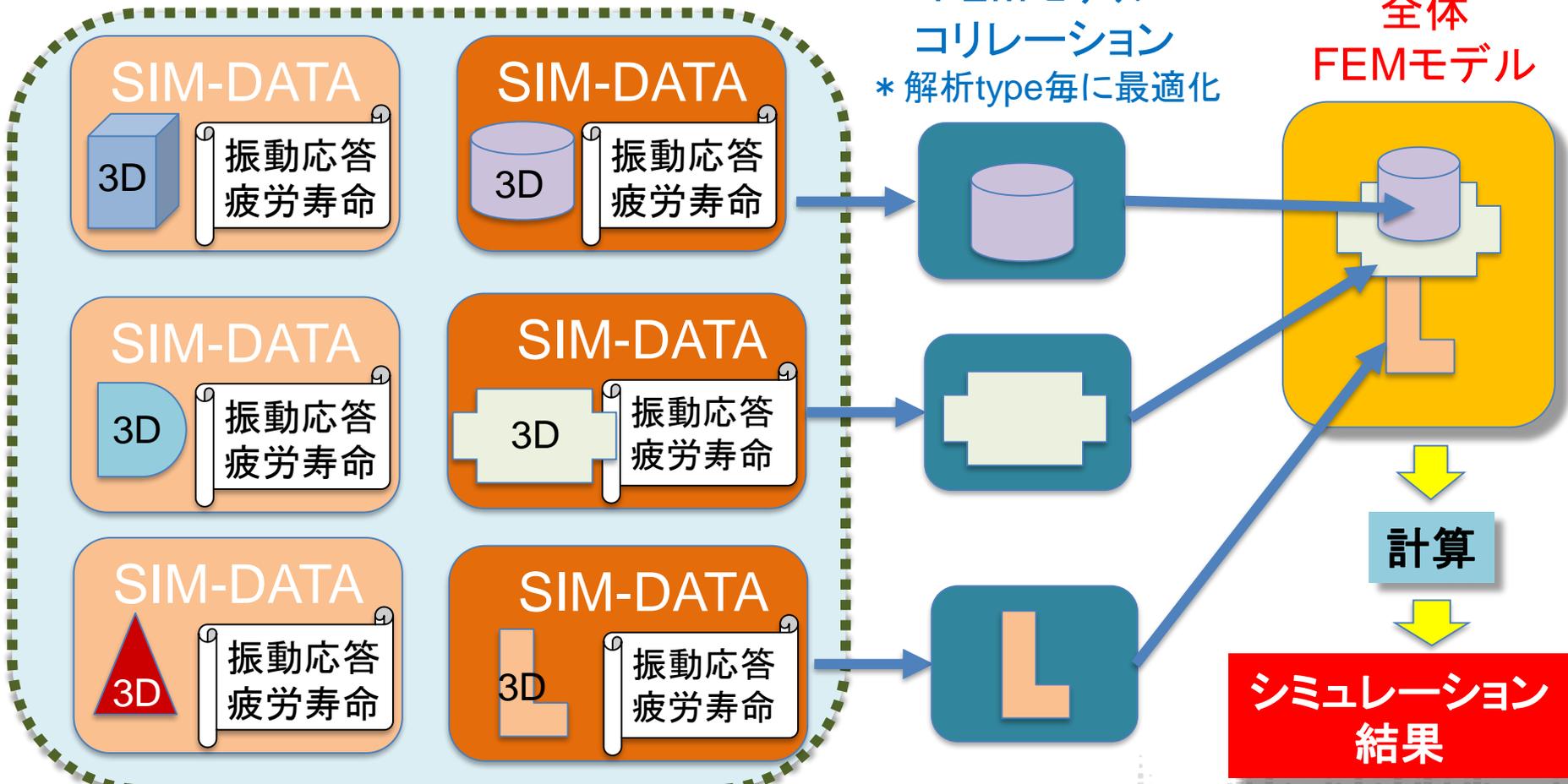
DSS事業(開発)の取り組み③ CAE関連ビジネス



1. SIM-DATA BASE活動

全体FEMモデル構築に使用可能な【SIM-DATA BASE】を実現する活動を推進

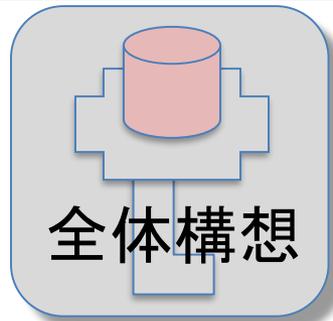
SIM-DATA BASE



2. 試験計画・SIM・DATA作成まで一括請負

◆ お客様 ◆

全体FEMモデル



依頼



FEMモデル・コリレーション
* 解析type毎に最適化

組込み



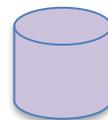
Down Load



◆ IMV ◆

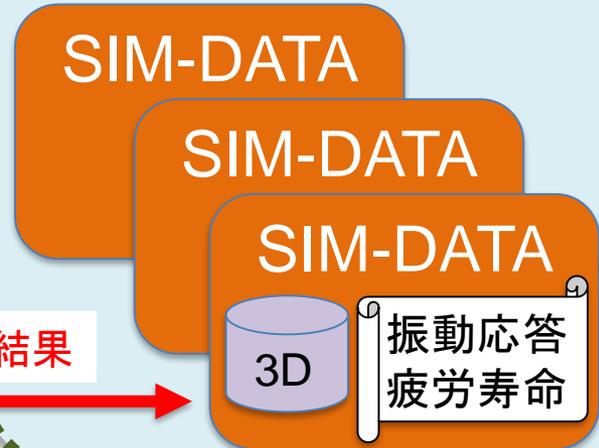


実部品 (製作or購入) 振動試験



実験結果

SIM-DATA BASE



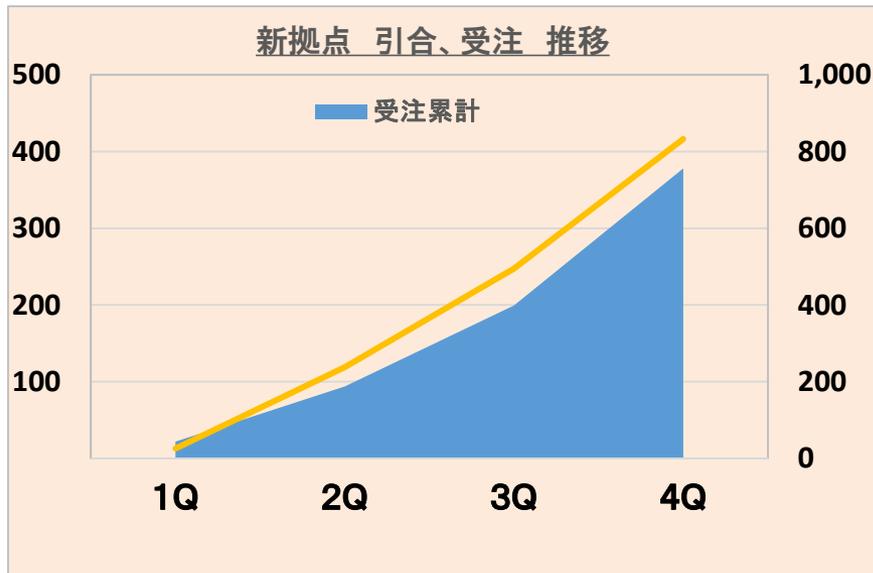


TSS事業の取り組み①

1. テストラボ新拠点の順調な立上げ

日本高度信頼性評価試験センター(e-TCJ)

自動車のEV化など、今後急速に立上がるモビリティ時代に向け、高需要が見込まれる環境試験、顧客の様々な要望に応えるサービス提供を開始



環境試験サービス開始



春日井テストラボ

JAPAN TESTING LABORATORIES株式会社との協業により、30台の振動機器を稼働（2019年10月現在）国内最大規模の振動試験テストラボを立上げ



国内最大機の振動試験サイト





TSS事業の取り組み②

2. e-TCJ EMC試験 11月本格稼働

強み／特長

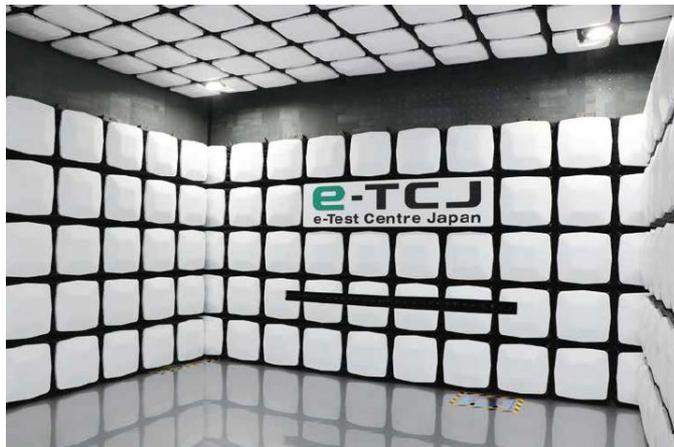
1. 技術力

i NARTEエンジニア（2名）／ i NARTEデザインエンジニア（1名）の布陣

2. 電波暗室（6 m x 7 m）：2室、シールドルーム：2室を装備

3. ロケーション：圏央道入間IC10分

電波暗室



アクセス（埼玉県入間市）



EMC試験：電気・電子製品から放射される電磁波を評価するエミッション（EMI）測定と、電磁波による誤動作の起こりやすさを評価するイミニティー（EMS）試験の2つから構成



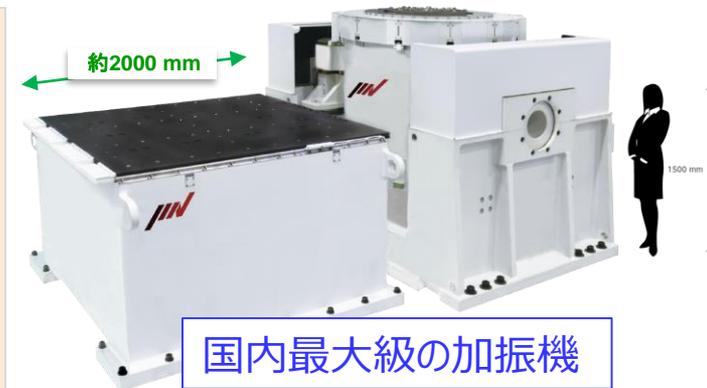
TSS事業の取り組み③

3. 東京・大阪ラボ 大型機増強

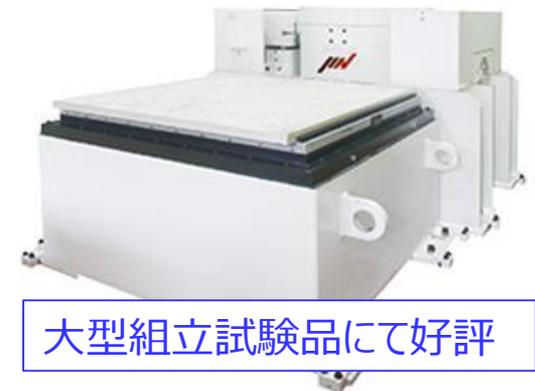
自動車用電池の大型化・長尺／大重量の試験品への対応を強化

大型機試験：前年比1.5倍

K350 (35トン機)



K200 (20トン機)



テストラボ事業（単体） 売上推移（百万円）



TSS事業の取り組み④ ASEANテストサービスの強化

1. 試験サービスメニューの拡大



従来の「振動専門のサービス」から、
振動をコアにした各種環境試験に対応した「ワンストップ試験サービスプロバイダー」へ



塩水噴霧試験機



粉塵試験機



温・湿度試験機



熱衝撃試験機

TSS事業の取り組み④ ASEANテストサービスの強化

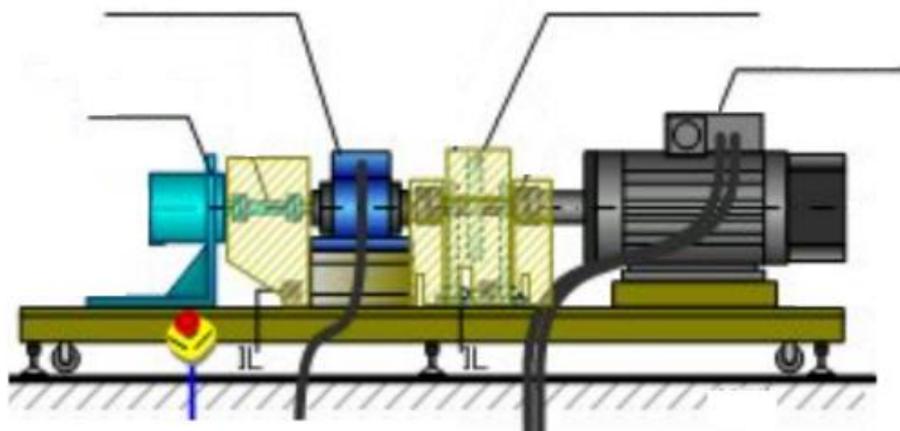
2. 自動車OEMメーカー向けEV関連製品 試験評価を開始



- ベトナム法人にてEV関連製品の機能評価試験を開始
- タイ法人においても、同様のサービスを提供できる体制を整え、グループとしてOEMメーカー様とのパートナー関係強化を図る



新試験室(2019年11月完成)



モーターダイナモシステム

TSS事業の取り組み④ ASEANテストサービスの強化

3. タイ国内試験場との提携を強化



- タイ国政府系試験機関であるEEI社（Electrical and Electronics Institute）ほか、複数の試験機関とMOUを締結
- ローカル試験機関との連携を強化し、知名度アップ、新規引合いの増加と試験サービスメニューの充実を図る



MES事業の継続案件① 予知保全(CMS)用【ラムダバイブロ】 監視計売上構成比18%に成長 (2019年9月期)

CMSとは
Condition Monitoring Systemの略

日本経済新聞より



「ラムダバイブロ分析システム」による故障の早期発見イメージ



振動CMSユニット
【ラムダバイブロ VM-8018】

原子力用途、印刷機など向けに市場投入(2018年下期開始)

MES事業の継続案件② 建築物の健全性を振動で診断

1. 業界初！ 既存ビル用の無線型「構造ヘルスマニター」HM-5013シリーズを発表
→建設業界に参入開始



有線版【HM-0013】(2017年発表)



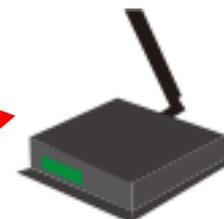
無線版【HM-5013-S】を2019年7月発表
→既存ビルへの“後付け”が可能に

MES事業の継続案件② 建築物の健全性を振動で診断

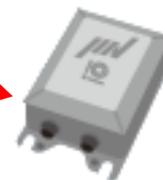
2. 前回発表の国土交通省「SIPプログラム」 実験 → 国家予算取得に向けて実証実験進行中

<取付状況>

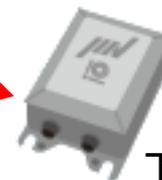
大阪市立大学
京都大学
IMVで実証実験
独自診断方法を確立



ゲートウェイGW-0013が
データをクラウドへ



上部センサ



下部センサ

橋脚上下に取り付けられた振動計測器の振動レベルを比較する事で
洗掘の状況を常時モニタリングします

MES事業の継続案件② 建築物の健全性を振動で診断

3. 政府の【国土強靱化計画】

2020年度予算約5兆円（内閣官房発表）確定

→インフラ修繕の関連需要を狙う



橋脚の洗掘・沈下



国土交通省「下部構造の損傷事例」より

橋を常時
モニタリング

増水時に
計測値を比較

平時に
異常な値を検知

点検・補修
を実施

橋を長く
使う



MES事業の継続案件③ 地震計の販売拡張 JBP（日本防災プラットフォーム）を 通じて地震計技術を継続して世界展開中

インドで開催された第3回日印防災協力会議にJBP会員9社、計31名が参加し、
日印防災ビジネス商談会が開催されました



日本防災プラットフォームホームページより(19年3月26日)
<https://www.bosai-jp.org/ja/news/detail/185>



IMV は日本防災プラットフォームに参加し、海外への防災協力を進めています

MES事業の取り組み① FA業界への参入

超小型振動センサ【VP8021A】 2019年8月発表

コンセプト：IoT時代の振動ピックアップ

高周波
MEMS素子採用

FAで使える超
小型サイズ

類似の競合製品無
し（2019年現
在）

CE取得
世界市場対応

IMV独自のノイ
ズキャンセル回路
（特許取得済）

PLCに接続可能

複数の大手PLCメーカーへの
OEM供給協議進行中



MES事業の取り組み① FA業界への参入

IoT対応の振動センサとして新聞各紙が掲載

従来当社が属してきた
「計測器市場」

(年間7千億円、JEMIMA統計)

とはケタ違いに大きな

「FA市場」への挑戦

振動センサー、IoT対応

IMVが予防保全向け

IMVは機械の予防保全を担う設備状態監視システム(CMS)で振動検知に携わるセンサーを開発した。微小電気機械システム(MEMS)と圧電式振動センサーの技術を融合した。IoT(モノのインターネット)対応の振動検知センサーとして工場自動化(FA)対応の生産現場などに6月頃サンプル供給し、3年後に年50万個の販売を目指す。

MEMSと圧電式融合

IMVが開発したのP18021A。MEMSが開発したのP18021A。MEMSは、MEMS加速度センサーを搭載した振動を検知できる機器「Vアナログ・デバイス(マサチューセッツ州のノウハウと、IMVの圧電式振動センサー)が開発した振動検知センサー」

センサーで培ったセンサーパッケージ技術を組み合わせた。消費税抜き価格は1万~3万円程度を想定。

VP18021Aは、IMVが考案した振動の影響を受けないセンサーの筐体構造を採用した。振動試験の結果、機械の予防保全に使用する振動診断に必要な振動数(周波数)10Hzまで対応できることを確認した。

MEMS加速度センサーは回路基板に実装しなければ使用できない。ただ回路基板自体も機械による励起振動で動くため、揺れがセンサーに伝わる。従来は、その意図しない振動が振動計測の妨げになっていた。

振動検知用のセンサーは温度や圧力、流量などを計測するセンサーに比べ、実用面での普及が遅れている。今回のセンサー採用で、生産現場における機械振動への予防保全の貢献を目指す。



ありがとうございました



代表取締役会長

小嶋 成夫

代表取締役社長

小嶋 淳平

経理部長

竹本 清志

■ お問い合わせ先

IR窓口：経営企画本部経理部 IR担当 竹本

TEL： 06-6478-2565 FAX： 06-6478-2567
06-6478-2562(個人株主さま)

E-MAIL： imvir@imv.co.jp <http://www.imv.co.jp>

○免責事項

本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。投資に関する決定は、ご自身のご判断において行われるようお願いいたします。

本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保障するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることをご承知おきください。



本日のアジェンダ

1. 会社概要

2. 2019年9月期決算サマリー

3. 今後の取り組み

(ご参考資料)

貸借対照表の概要(連結)



(単位:百万円)

	19/9期末	18/9期末	増減額		19/9期末	18/9期末	増減額
流動資産	8,883	8,929	△46	流動負債	6,684	7,239	△555
現金預金	1,143	1,672	△528	仕入債務	2,742	2,685	△243
売上債権	4,825	4,348	477	短期有利子負債	2,486	3,251	△765
棚卸資産	2,725	2,585	140	その他流動負債	1,456	1,302	453
その他流動資産	190	324	△134	固定負債	2,012	1,709	303
固定資産	6,317	6,426	△109	長期有利子負債	1,669	1,332	336
有形固定資産	5,672	5,513	159	その他固定負債	343	388	△45
無形固定資産	82	365	△283	負債合計	8,697	8,948	△251
投資その他資産	562	547	15	純資産合計	6,503	6,407	95
資産合計	15,200	15,356	△156	負債・純資産合計	15,200	15,356	△156

※「税効果会計に係る会計基準」の一部改正を適用した結果、前期貸借対照表の組替を実施しております。

資産の部 : 現金預金が528百万円減少し、売上債権が477百万円増加いたしました。

負債の部 : 短期有利子負債は765百万円減少し、長期有利子負債は336百万円増加した結果、有利子負債全体では429百万円減少いたしました。

純資産の部 : 親会社株主に帰属する当期純利益を計上した結果、純資産は95百万円増加いたしました。

キャッシュフロー計算書の概要(連結)



(単位:百万円)

		19/9期末	18/9期	増減額
①	営業活動によるキャッシュ・フロー	798	△ 34	832
②	投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 653	△ 1,917	1,264
①+②	フリーキャッシュフロー	145	△ 1,951	2,096
③	財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 556	1,548	△ 2,105
④	現金及び現金等価物に係る換算差額	8	19	△ 11
⑤	現金及び現金同等物の増減額	△ 403	△ 383	△ 19
⑥	現金及び現金同等物期首残高	1,374	1,757	△ 383
⑦	現金及び現金同等物期末残高	970	1,374	△ 403

営業CF :税金等調整前当期純利益が475百万円及び減価償却費618百万円等の増加要因により、キャッシュが798百万円の増加となりました。

投資CF :設備投資等の有形固定資産の取得による支出804百万円等により、653百万円の減少となりました。

フリーCF :税金等調整前当期純利益が計上されたものの、有形固定資産取得による支出等によりフリーキャッシュフローは145百万円となり、前年同期比2,096百万円増加となりました。

財務CF :短期借入金及び長期借入金の返済916百万円、配当金の支払127百万円等の減少要因が、長期借入金による調達488百万円を上回ったことにより、556百万円の支出となりました。

沿革



- 1957 株式会社 国際機械振動研究所(旧社名)を設立
- 1988 東京テストラボ開設
- 2005 ジャスダック証券取引所に上場
- 2011 10月、英国に IMV CORPORATION EUROPEAN TECHNICAL CENTRE を開設
(現 IMV EUROPE LIMITED)

- 2012 1月、タイに IMV (THAILAND) CO., LTD. (子会社)を設立
- 11月、ドイツに IMV CORPORATION German Sales Office を開設
(現 IMV EUROPE LIMITED German Sales Office)



IMV (THAILAND) CO., LTD.



IMV EUROPE LIMITED
German Sales Office



IMV株式会社 上海代表所

- 2013 5月、IMV株式会社 上海代表所を設立
- 2015 1月、英国にIMV EUROPE LIMITED European Manufacturing Centreを開設
- 11月、東京テストラボ 上野原サイト 高度試験センターを開設

- 2016 4月、米国にIMV America, Inc.(子会社)を開設
- 2017 7月、英国に1G DYNAMICS LIMITED.(子会社)を開設
- 2018 4月、ベトナムにIMV TECHNO VIETNAM COMPANY LIMITED.(子会社)を設立

12月、日本高度信頼性評価試験センター(e-TCJ)を開設

- 2019 1月、春日井テストラボを開設



IMV EUROPE LIMITED



東京テストラボ 上野原サイト
高度試験センター



IMV America, Inc.



1G DYNAMICS LIMITED



日本高度信頼性評価試験
センター



IMV TECHNO VIETNAM CO.,LTD.



春日井テストラボ



[SECURE THE FUTURE]



FIRST choice
for our Partners

IMVが見守る未来

IMVは1957年の設立以来、振動問題のソリューションパートナーとしてさまざまな分野と携わってきました。これからも、製品→パートナー→社会に対して、信頼を形にする企業であり続けます。

Future

安全を見つめて未来の社会に貢献します。

IMV work with our customers and investors to secure their future, developing the products, skills and resources that will bring success. IMV appreciate this and work fast to meet our Partners' future needs.

Integrity

誠実で開かれたパートナーシップを大切にします。

IMV treat our customers, suppliers and investors with the highest of integrity, dealing with all our partners in an open and honest manner. IMV work hard to earn and keep your trust.

Reliability

製品とサービス、すべてに信頼を作り込みます。

Our customers use IMV's products to ensure reliability and performance. We build this reliability into all our products and services. IMV will be there when you need us.

Strength

振動技術の世界リーダーとして経営基盤を強化します。

IMV's financial strength means we will be a long-term partner for our customers and able to invest in the research for new products. IMV have the strength in finances, products and people to serve our customers on a global basis. We have the strength to be the World's Number 1 Vibration Test and Measurement Company.

Technology

顧客ニーズに俊敏に応える技術を開発します。

IMV invest substantially in research to understand our Customers' needs and the products to meet those needs. IMV have been the first to market with many new products and technologies and we will continue to lead the market through technology and innovation for the benefit of our customers and investors.